

高山市ごみ処理施設建設工事

審査講評

令和4年11月

高山市ごみ処理施設建設事業者選定委員会

<目 次>

第1	発注概要	1
1.	工事番号及び工事名	1
2.	工事概要	1
3.	発注方式	1
4.	事業者選定方式	1
5.	高山市ごみ処理施設建設事業者選定委員会の設置	2
6.	事業者選定委員会の開催経過	2
7.	落札候補者選定の手順	3
1)	入札参加資格要件	4
2)	発注仕様書	5
3)	提案審査	6
(1)	基礎審査	6
(2)	非価格要素審査(技術審査)	6
(3)	価格審査	6
(4)	総合評価	7
第2	審査概要	8
1.	落札候補者の選定の経過	8
2.	入札参加資格審査	8
3.	基礎審査	9
4.	非価格要素審査(技術審査)	9
5.	価格審査	9
6.	総合評価	10
7.	総評	10
	別表1 非価格要素審査の審査項目・審査内容及び配点	
	別表2 非価格要素審査の評価の視点	
	別表3 非価格要素審査の結果及び各審査項目の講評	

第1 発注概要

1. 工事番号及び工事名

04環建第52号 高山市ごみ処理施設建設工事

2. 工事概要

工事概要は表1に示すとおりである。

表1 工事概要

施設の種類	一般廃棄物処理施設
建設予定地	ア 所在地 岐阜県高山市三福寺町1800番地外(現施設の東側) イ 事業用地面積 約8,960 m ² (約87m×約103m)
施設の概要	国内トップクラスの環境性能による処理対象ごみの安定的な処理及び処理過程で発生する熱エネルギーの有効活用並びに環境学習や防災等の拠点となる施設。
施設規模等	95t/24h (47.5t/24h×2炉)
処理方式	全連続燃焼式ストーカ方式
工期(予定)	令和4年12月(議決の日)～令和8年2月13日
対象となる業務範囲	本施設の設計に関する業務 本施設の建設に関する業務
予定価格	14,630,000千円 (税込) 13,300,000千円 (税抜)

3. 発注方式

○設計・施工一括発注方式(性能発注方式)

発注者が実現しようとする施設の性能(施設規模、焼却方式、排ガス自主規制値など)を示す発注仕様書を提示した後、建設工事を請け負おうとする者が発注仕様書を満たす設計と施工を一括して技術提案し、受注事業者を選定する発注方式を採用した。

4. 事業者選定方式

○高度技術提案型総合評価落札方式

発注仕様書に基づき、各事業者が作成する技術提案について、市が入札価格のみならず、維持管理費を含む総合的なコスト削減、施設の性能・機能の向上、資源循環、エネルギー回収、CO₂対策等の社会的要請への対応も含めた技術を総合的に評価して、受注事業者を選定する方式を採用した。

5. 高山市ごみ処理施設建設事業者選定委員会（以下、「事業者選定委員会」という。）の設置（設置条例有）

技術的観点から市のみでは、発注仕様書や事業者評価基準の作成、事業者提案図書の審査等を行うことは困難であるため、ごみ処理技術に関する学識経験者や建築等に関する有識者等で構成される事業者選定委員会を設置し、市からごみ処理施設の建設に係る事業者の審査、選定について諮問した。

表2に示す外部の学識経験者2名を含む5名の委員が、専門的見地を踏まえて、発注仕様書や落札候補者選定基準書等の作成及び中立的かつ客観的に事業者の提案内容を審査した。

表2 事業者選定委員会 構成委員 (敬称略)

No.	所 属	氏 名	備 考
1	岐阜大学 副学長（工学博士）	神原 信志	委員長・技術顧問 *学識経験者
2	名古屋大学大学院 工学研究科 機械システム工学専攻	義家 亮	技術顧問 *学識経験者
3	岐阜県建築士事務所協会 飛騨支部	仲 康信	副委員長
4	岐阜県建築士事務所協会 飛騨支部	伊藤 麻子	
5	NPO法人 高山おもちゃ病院 (ごみ処理施設建設運営精通者)	福田 仁重	

6. 事業者選定委員会の開催経過

本工事における事業者選定委員会の開催経過は表3に示すとおりである。

表3 事業者選定委員会の開催経過

開催回	日程	主な審議事項
第1回	令和4年1月12日(水)	◎ごみ処理施設建設事業者の選定について市から委員会へ諮問 (1) 委員長、副委員長の選任について (2) 委員会の運営について ・委員会の概要説明 ・今後のスケジュール ・委員会の公開・非公開の決定 (3) 発注にかかる決定事項の確認 (4) 入札公告に係る審議
第2回	令和4年3月4日(金)	(1) 入札説明書について (2) 発注仕様書について (3) 落札候補者選定基準書について (4) 入札公告に係る答申(案)について
答申	令和4年4月14日(木)	入札説明書(案)、発注仕様書(案)、落札候補者選定基準書(案)を市へ答申
第3回	令和4年9月6日(火)	(1) 経過報告及び今後の予定について (2) 基礎審査について (3) 非価格審査(技術審査)及び価格審査について (4) 事業者ヒアリングについて *各グループの技術提案書を委員に配付
第4回	令和4年10月18日(火)	(1) 入札参加者プレゼンテーション・ヒアリング (2) 非価格審査(技術審査) (3) 価格審査 (4) 総合評価・落札候補者の選定
答申	令和4年10月18日(火)	落札候補者を市へ答申

7. 落札候補者選定の手順

落札候補者選定の手順については、図1に示すとおりとした。

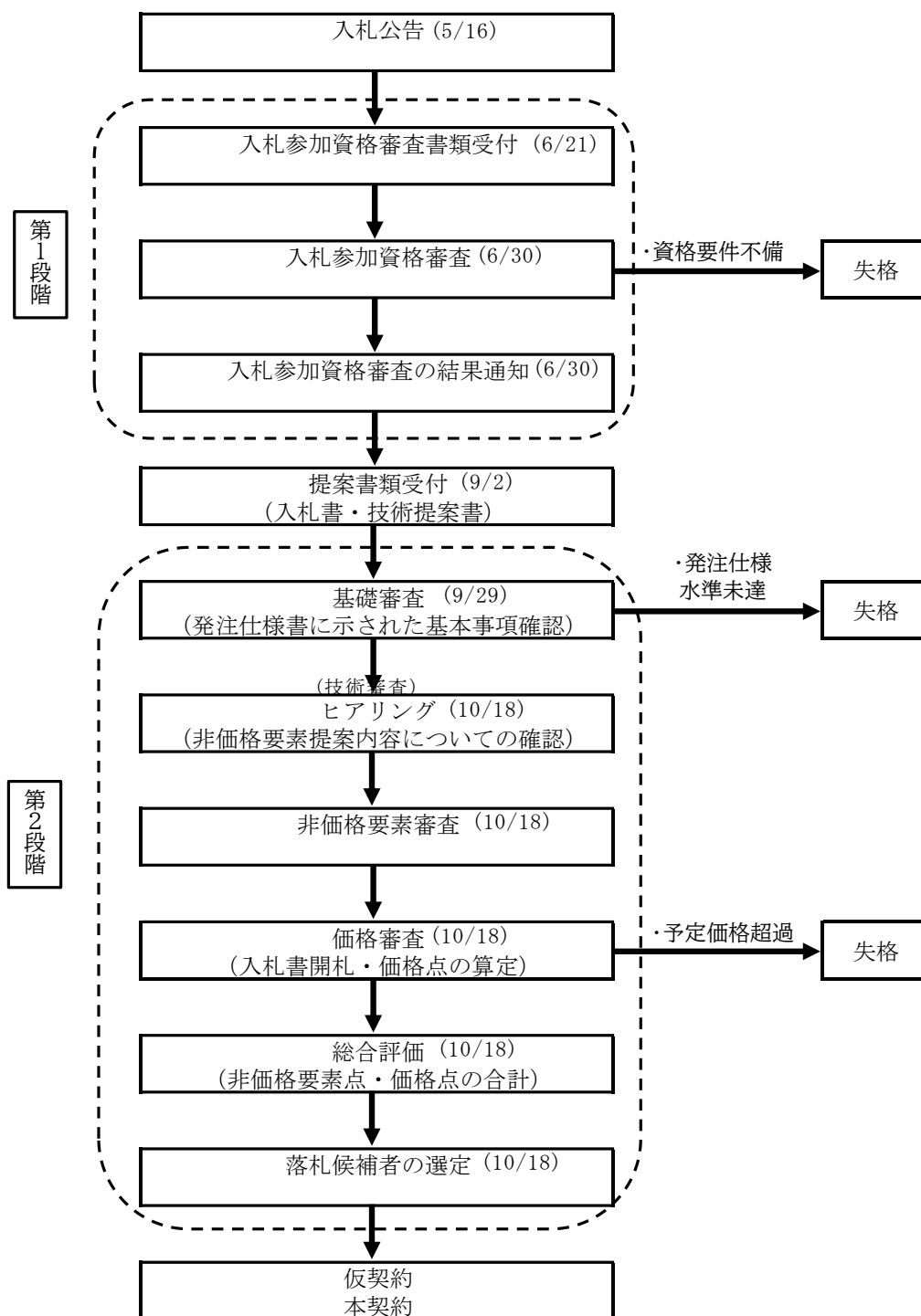


図1 落札候補者選定の手順

1) 入札参加資格要件

応募者から提出された資格審査申請書類等から、以下に示された「入札参加資格要件」を満たしていることを市が確認することとした。

○入札参加者の基本的要件（主なもの）

- ・入札参加者の形態は、構成員で構成される共同企業体（JV）及び代表企業と協力企業で構成される企業グループ、またはその複合形態のいずれも可とする。
- ・代表企業は高山市競争入札参加資格者名簿に「清掃施設」に登録、構成員又は協力企業は「建築一式」に登録されていること。ただし、プラント設備の設計、建設を行う者と建築物の設計、建設を行う者が同一の場合は「清掃施設」の登録があれば足りることとする。
- ・構成員又は協力企業には高山市に本店を置く地元企業を1社以上含むこととする。

○その他要件

種別	プラント設備の設計・建設を行う者の要件(清掃施設)
主な要件	<ul style="list-style-type: none"> ・経営事項審査結果の総合評価値が1,200点以上であること ・特定建設業の許可を受けていること ・清掃施設工事に係る監理技術者資格証を有し、且つ監理技術者講習を受けているものを選任で配置できること ・地方自治体等が発注するごみ焼却施設整備に係る元請での受注実績があること ・ストーカー方式の受注実績があること ・施設規模95t/日以上且つ2炉以上でボイラータービン式発電設備付きの受注実績があること（平成14年4月以降） ・施設規模95t/日以上且つ2炉以上でボイラータービン式発電設備付きの施設で10年以上の稼働実績があること
種別	建築物の設計・建設を行う者の要件（建築一式）
主な要件	<ul style="list-style-type: none"> ・経営事項審査結果の総合評価値が1,000点以上であること ・一級建築士事務所の登録があり、ごみ処理施設等の設計の実績があること ・特定建設業の許可を受けていること ・一級建築施工管理技士又は同等の資格を有する者を専任で配置できること ・ごみ処理施設と同種又は類似の建設工事（ごみピット等の地下構造物の施工実績を含む）の施工実績があること
種別	構成員又は協力企業として参画する高山市に本店を置く地元企業の要件（建築一式）
主な要件	<ul style="list-style-type: none"> ・経営事項審査結果の総合評価値が790点以上であること ・特定建設業の許可を受けていること

2) 発注仕様書

事業者選定委員会において、令和4年2月に策定した高山市ごみ処理施設基本設計書に定める基本方針（①周辺環境への対応、②熱エネルギーの効率的な利用、③安全・安心な施設、④環境監視活動、⑤施設の運営方法、⑥ごみ減量化の取り組み）に沿って、国内トップクラスの環境性能やエネルギー活用、環境学習、防災機能、建築計画等を盛り込んだ素案を作成いただき、市で内容を確認、決定した。

3) 提案審査

(1) 基礎審査

応募者から提出された技術提案書の内容が、発注仕様書に示す要件を満たしていることを市が確認することとした。

(2) 非価格要素審査（技術審査）

非価格要素審査の審査項目及び審査内容は、以下に示すとおりとした。なお、評定の前に、事業者選定委員会にて事業者ヒアリングを併せて実施することとした。

① 非価格要素審査における評価の視点及び点数化方法

非価格要素点の配点は、700点とした。

② 非価格要素審査の配点内訳及び評価の視点

非価格要素審査の配点内訳は、別表1のとおりとした。また、評価の視点は、別表2のとおりとした。

③ 評価項目の採点基準

各評価項目において、表4に示す5段階により評価、点数化することとした。

表4 評価及び点数化

評価	評価内容	採点の算出方法
A	特に優れている	項目ごとの配点×1.00
B	優れている	項目ごとの配点×0.75
C	良い	項目ごとの配点×0.50
D	工夫が見られる	項目ごとの配点×0.25
E	仕様を満たす程度	項目ごとの配点×0.00

(3) 価格審査

入札価格が入札書比較価格を上回った入札者は失格となるため、入札書に記載された金額が入札書比較価格を超えていないことを確認することとした。

① 入札書比較価格（予定価格から消費税及び地方消費税を除いた価格）

13,300,000千円とした。

② 価格審査の点数化方法

価格点の配点は、300点とした。

価格点については、以下の算定方法とした。なお、点数は小数第2位を四捨五入して小数第1位まで求めることとした。

【価格審査点の算定式】
①最低入札価格 > 定量化限度額の場合 当該入札者の価格点 = 配点 (300点) × 最低入札価格 / 入札価格
②最低入札価格 ≤ 定量化限度額の場合 ア. 入札価格が定量化限度額以上の場合 当該入札者の価格点 = 配点 (300点) × 定量化限度額 / 入札価格 イ. 入札価格が定量化限度額未満の場合 (低入札価格調査有) 当該入札者の価格点 = 配点 (300点) × 1

* 定量化限度額とは、当該契約の内容に適合した履行が最低限確保されると認められる金額

③定量化限度額

11,305,000千円 (税抜) とした。

* 他自治体の落札実績事例をふまえて、入札書比較価格の85%とした。

④低入札調査基準価格

定量化限度額と同額とした。

* 入札価格が定量化限度額以下の場合は、当該入札参加者の価格点は満点の300点とすることとした。ただし、定量化限度額を下回る価格での入札を行った場合は、当該契約の内容に適合がした履行が確保されるかどうか、低入札価格調査を実施することとした。

(4)総合評価

落札候補者は、(2)の「非価格要素審査」による非価格要素点 (技術点) と(3)の「価格審査」の価格点を合計した総合評価点により、選定することとした。

総合評価点は、1,000点満点とした。

【総合評価点の算定式】
総合評価点 = 非価格要素点 + 価格点 (技術点)

第2 審査概要

1. 落札候補者の選定の経過

落札候補者の選定の経過は表5に示すとおりである。

表5 落札候補者の選定の経過

内 容	日 程
(1)入札公告	令和4年5月16日(月)
(2)募集要項の公表	令和4年5月16日(月)
(3)現地説明会	令和4年5月25日(水) ～令和4年5月30日 (月)
(3)募集要項に対する質問の提出期限(第1回)	令和4年5月31日(火)
(4)募集要項に対する質問への回答(第1回)	令和4年6月7日(火)
(5)入札参加資格審査申請書の提出期限	令和4年6月21日(火)
(6)入札参加資格審査(市契約審査会)	令和4年6月30日(木)
(7)入札参加資格審査結果の通知	令和4年6月30日(木)
(8)募集要項に対する質問の提出期限(第2回)	令和4年7月22日(金)
(9)募集要項に対する質問への回答(第2回)	令和4年8月5日(金)
(10)技術提案書類・入札書等の提出期限	令和4年9月2日(金)
(11)基礎審査(市契約審査会)	令和4年9月29日(木)
(12)基礎審査結果の通知	令和4年9月29日(木)
(13)技術提案に係るヒアリング・非価格要素審査・入札書の開札・価格審査・総合評価の実施、 落札候補者の答申	令和4年10月18日(火)

2. 入札参加資格審査

以下の2グループから入札参加資格審査の申請があった。

市は入札参加資格の確認を行い、両グループの代表企業に対して入札参加資格を有することを書面にて通知した。

なお、事業者選定委員会による審査にあたっては、審査の公平を期すため、提案書等すべての書類において応募者の企業名を伏せ、表6の応募者名で識別して評価を行うこととした。

表6 入札参加確認申請書類提出グループ

応募者名	のりくらグループ	はくさんグループ
代表企業	JFE 環境テクノロジー株式会社	荏原環境プラント株式会社 中部支店
構成企業	該当なし	該当なし
協力企業	佐藤・堀口特定建設工事 共同企業体 (佐藤工業株式会社 岐阜営業所 株式会社堀口工務店)	飛騨建設株式会社 株式会社林工務店 丸仲建設株式会社 大山土木株式会社

3. 基礎審査

入札参加資格を有する上記2グループから技術提案書の提出があった。

市は応募者（以下「入札参加者」とする）から提出された技術提案書の内容が、発注仕様書に示す要件を満たしていることを確認し、両グループの代表企業に対して基礎審査に合格したことを書面にて通知した。

4. 非価格要素審査（技術審査）

第4回事業者選定委員会（10月18日開催）では、事業者ヒアリングを踏まえた各委員の採点及び委員間の協議を経て、非価格要素点の評定を行った。

非価格要素審査の結果及び各審査項目の講評は別表3に示すとおりである。

5. 価格審査

事業者選定委員会委員長及び入札参加者立ち合いのもとで、入札書の開札を実施した。入札価格はいずれも入札書比較価格以下であり、失格者はなかった。

また、定量化限度額及び低入札調査基準価格を下回る入札がないことも確認した。開札結果及び価格点の算出結果は表7のとおりである。

表7 入札金額及び価格点の結果

項目	配点	のりくらグループ	はくさんグループ
価格審査の評価点	300点	300点	284.8点
入札金額（税抜）		12,240,000,000円	12,893,000,000円
入札書比較価格（税抜）		13,300,000,000円	
定量化限度額（税抜）		11,305,000,000円	
低入札調査基準価格（税抜）		11,305,000,000円	

6. 総合評価

非価格要素審査による得点と価格審査による得点を加えて総合評価点を算定した。総合評価の結果は表8のとおりである。

表8 総合評価の結果

グループ名		のりくらグループ	はくさんグループ
代表企業名		JFE環境テクノロジー株式会社	荏原環境プラント株式会社 中部支店
項目	配点		
非価格要素点	700点	486点	524点
価格点	300点	300.0点	284.8点
総合評価点	1,000点	786.0点	808.8点
落札候補者			○

事業者選定委員会は、上記の結果に基づき「はくさんグループ」（代表企業：荏原環境プラント株式会社 中部支店）を落札候補者として選定した。

7. 総評

本工事は、高山市資源リサイクルセンターの焼却施設（以下「現施設」という。）の老朽化に伴い、新たなごみ焼却施設を現施設の隣接地に整備することを目的としており、施設整備の基本方針として以下の6つを掲げている。

- ① 周辺環境への対応
- ② 熱エネルギーの効率的な利用
- ③ 安全・安心な施設
- ④ 環境監視活動
- ⑤ 施設の運営方法
- ⑥ ごみ減量化の取り組み

事業者の選定方法は、専門的な技術やノウハウが求められる本工事の特性を踏まえ、価格のみによる評価ではなく、事業者からの提案及び入札価格を総合的に評価して落札候補者を選定する高度技術提案型総合評価落札方式とした。

事業者選定委員会では、施設整備の基本方針に基づき、選定基準及び選定方法等を落札候補者選定基準書に定め、落札候補者選定のための審査を実施した。

今回、入札に参加した2グループの提案は、いずれも本工事の特性を的確に捉えたうえで、本工事の有する課題に対応するための多くの創意工夫が含まれており、各グループの過去の実績や経験に基づく創造的なものであった。各グループの真摯な対応に感謝するものである。

落札候補者選定基準書に基づき、技術提案及び入札価格に対して厳正なる審査を行った結果、荏原環境プラント株式会社 中部支店を代表企業とする「はくさんグループ」を落札候補者として選定した。

はくさんグループの提案は、市が期待する創意工夫と地元企業の活用を両立していると評価したものであり、特に「エネルギー回収の工夫など脱炭素社会への配慮」、「地元貢献」について、高く評価した。

○要望事項

- ①本工事の実施にあたり、発注仕様書に基づく技術提案を確実に履行すること。また、今後の設計、施工及び維持管理にあたっては、30年間の安定稼働を担保する施設として、高山市と十分に協議し、提案書等の確実な履行を図ること。
- ②工事期間を通じて、特に工事中の安全の確保について十分に配慮すること。特に隣接する現施設においてごみ処理施設が稼働し、ごみ収集車、一般車両等が入退場することを考慮すること。
- ③実施設計にあたっては、将来の可燃ごみ、埋立ごみ、資源ごみの搬入状況等、諸条件の設定について精査し、高山市と十分に協議した上で、搬入者の安全性や利便性について配慮すること。
- ④高山市が別途実施する造成工事と十分に調整のうえ施工計画を立案し、工期を遵守するとともに、効率的且つ品質の高い施工に努めること。
- ⑤国内トップクラスの環境性能を有する施設として、環境負荷の低減や排ガス等に対する公害対策に万全を期すること。
- ⑥技術提案書に記載しているとおり、地元雇用と地元企業の活用を確実に実現するとともに、更なる拡大に努めること。
- ⑦高度なエネルギー回収技術を基に、提案されたエネルギー回収及び有効利用計画を確実に実行し、高山市地球温暖化対策地域推進計画の基本目標である『市内における二酸化炭素排出量実質ゼロの早期達成を目指します』～ゼロカーボンシティの実

現～に向けた各種取り組みに貢献すること。

- ⑧環境学習機能の整備については、高山市における環境教育の先進施設とするため、ごみ減量化や再生可能エネルギーの活用、周辺自然環境の保全等、多くの市民に活用いただける施設となるよう高山市と十分に協議し、進めること。

はくさんグループは、本工事をより良いものとするため、上記の要望事項について、真摯な対応に努めてもらいたい。

さらに、工事期間を通じ、協力会社共々誠意をもって各工程に取り組み、高山市と協働して地域との信頼関係を築きながら、本工事を円滑に推進し、高山市の安定したごみ処理事業の継続に寄与することを期待する。

高山市ごみ処理施設建設事業者選定委員会

委員長 神原 信志

別表 1

非価格要素審査の審査項目・審査内容及び配点

審査項目	審査内容	配点
①周辺環境への配慮	①-1 自主規制値を遵守するためのプラントシステムの構築	20点
	①-2 自主規制値遵守のための管理値と監視システム	20点
	①-3 環境影響の低減	20点
	①-4 各種制御システムの配備や最適な機器類の選定配置	20点
	①-5 工事中の環境配慮	20点
	小計	100点
②エネルギー有効活用など脱炭素社会への配慮	②-1 エネルギー回収の工夫	20点
	②-2 消費電力、買電量の低減	20点
	②-3 熱、電気の安定供給	20点
	②-4 エネルギー活用提案	20点
	②-5 脱炭素の取り組み	20点
	小計	100点
③安全、安心な施設	③-1 30年間の安定稼働	20点
	③-2 適切な維持管理計画及び費用の低減の工夫	20点
	③-3 事故の防止、安全への配慮	20点
	③-4 働く人の健康、働きやすさへの配慮	20点
	③-5 不測の事態への対応	20点
	小計	100点
④環境学習機能	④-1 見学者対応機能	20点
	④-2 環境学習へのアクセス性、快適性	20点
	④-3 効果的な環境学習のための設備等の提案	20点
	小計	60点
⑤防災機能	⑤-1 避難所としての機能	20点
	⑤-2 非常時の早期復旧	20点
	⑤-3 災害廃棄物の処理機能	20点
	小計	60点
⑥建築計画	⑥-1 優れた建築設計	20点
	⑥-2 外観、デザイン	20点
	⑥-3 内部のデザイン	20点
	⑥-4 居室、通路等の適切な配置	20点
	小計	80点

⑦施設運営	⑦-1	施設の配置計画及び動線計画	20点
	⑦-2	デジタル技術の活用	20点
	⑦-3	機器類及び消耗品の安定調達や薬品使用量の低減の工夫	20点
	⑦-4	人員配置、体制	20点
	小計		80点
⑧工事中の安全、品質の確保及び工期の厳守	⑧-1	工事工程計画	20点
	⑧-2	工事管理方法	20点
	⑧-3	工法・仮設計画	20点
	⑧-4	既存焼却施設等との連携	20点
	小計		80点
⑨その他	⑨-1	地元企業との連携・活用	20点
	⑨-2	地域経済への貢献及び周辺地域への配慮	20点
	小計		40点
合計			700点

審査項目	審査内容		評価の視点
①周辺環境への配慮	①-1	自主規制値を遵守するためのプラントシステムの構築	施設稼働中（1炉運転時を含む）に排ガス・騒音・振動・悪臭などの公害防止基準値を確実に遵守しながら適正処理を行うためのプラントシステムの基本的考え方が適切であるか。また、経験及び明確な根拠に基づいた提案となっているか。
	①-2	自主規制値遵守のための管理値と監視システム	自主規制値を超えることなく運転を行うために適切な管理値の設定の提案がなされているか。また、自主規制値が守られていることを監視し、運転にフィードバックするシステムの提案となっているか。
	①-3	環境影響の低減	ごみ処理に起因する環境への影響（粉じん、振動、騒音、悪臭、害虫など）を低減する工夫がプラントシステムに組み込まれているか。また、それぞれの工夫について十分な効果が見込まれる提案となっているか。
	①-4	各種制御システムの配備や最適な機器類の選定配置	トラブルや事故を未然に防ぐ制御システムや信頼できる機器の選定、容量・能力・耐久性等に余裕を持たせるなど、周辺環境への影響を防ぐ信頼性の高い提案となっているか。
	①-5	工事中の環境配慮	建設工事中にも、周辺への環境に影響を及ぼさない提案となっているか。 （工事車両通行、工事車両排ガス・騒音・振動・悪臭・排水対策等の環境負荷対策など）
②エネルギー有効活用など脱炭素社会への配慮	②-1	エネルギー回収の工夫	国庫補助（二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金）を得るために必要なエネルギー回収率が正しく確保されているか。また、ごみ質・ごみ量の変動に対応できる、適切な蒸気供給及び発電システム（ボイラーを含む）の提案となっているか。
	②-2	消費電力、買電量の低減	電力の系統連系ができない現状を踏まえた上で、システム及び運転計画について、発電量と場内消費量のバランスが十分に検討され、消費電力及び買電量の低減が図られた提案となっているか。
	②-3	熱、電気の安定供給	一炉運転時の状況に配慮しつつ、周辺施設や融雪装置への熱供給や場内設備への電力供給が、有効かつ安定的、合理的に行われる提案となっているか。
	②-4	エネルギー活用提案	回収したエネルギーを有効に活用できるよう、将来の蓄電池の活用を視野に入れた有効な提案となっているか。
	②-5	脱炭素の取り組み	エネルギー回収型廃棄物処理施設として、施設全体での省エネルギー、脱炭素が実現された、先進的な環境性能を有する提案となっているか。
③安全、安心な施設	③-1	30年間の安定稼働	プラントシステムとして、ライフサイクルコストの低減を図りつつ、30年間の施設の稼働・安定処理を確実に実現する具体的な方策が盛り込まれた提案となっているか。
	③-2	適切な維持管理計画及び費用の低減の工夫	定期的な点検・検査・補修及び更新などの維持管理計画が合理的、効率的なものとなっているか。また、補修や更新の費用の低減が十分考慮された提案となっているか。
	③-3	事故の防止、安全への配慮	ヒューマンエラーによる事故や災害の防止機能について適切かつ有効な手法が盛り込まれているか。また、それぞれの機能の必要性や有効性について、経験や実績に基づいた提案となっているか。
	③-4	働く人の健康、働きやすさへの配慮	空調、換気、照度、作業用の空間の確保など、設備や構造が働く人の健康や快適性に十分配慮した提案となっているか。
	③-5	不測の事態への対応	機器の故障など不測の事態発生によるプラントの停止等、トラブル発生時の迅速なサポート体制の提案がなされているか。また、速やかな復旧を実現するためのチェックリストの整備等、有効かつ具体的な提案となっているか。
④環境学習機能	④-1	見学者対応機能	施設の役割やごみ処理の仕組み、エネルギーの有効活用等を学ぶための見学動線、見学内容、見学窓の配置、見学者説明設備等について、適切な提案となっているか。
	④-2	環境学習へのアクセシビリティ、快適性	来訪者が見学用施設等に安全かつ容易にアクセスできる、市民に開かれた施設となっているか。また、施設見学や環境学習での滞在中、様々な年代の人が快適に過ごせる工夫がなされた提案となっているか。
	④-3	効果的な環境学習のための設備等の提案	様々な年代の人が繰り返し訪れることを想定し、デジタル技術の活用等、視聴覚設備とその運用について、効果的な提案となっているか。

審査項目	審査内容		評価の視点
⑤防災機能	⑤-1	避難所としての機能	災害発生時の避難場所としての機能性、備蓄品貯蔵スペースの確保等について十分考慮された提案となっているか。
	⑤-2	非常時の早期復旧	地震等の災害による全停電及びライフライン遮断時のごみ処理の早期復旧について、自立運転への移行の方法、通常時からの薬品の備蓄等について十分考慮された提案となっているか。
	⑤-3	災害廃棄物の処理機能	災害により発生した廃棄物の処理を行う場合を想定し、通常の処理と併行して災害廃棄物の処理を行うための、有効かつ適切な提案となっているか。
⑥建築計画	⑥-1	優れた建築設計	ごみ処理施設として長期間安全に稼働することを前提として、建築物の構造、耐久性、維持管理性への配慮が適切になされているか。また、建築設計が積雪、凍結対策、採光、換気、作業性等に十分配慮された提案となっているか。
	⑥-2	外観、デザイン	施設の外観について、形状、材質、仕上げ、色彩等が周辺環境と調和したものとなっているか。また、清潔感が感じられる提案となっているか。
	⑥-3	内部のデザイン	施設の内部について、機能的なレイアウト、ユニバーサルデザイン及び維持管理性に配慮した提案となっているか。
	⑥-4	居室、通路等の適切な配置	居室と通路の配置が、使いやすい提案となっているか。また、見学者が立ち入る領域と事務系業務の領域、運転管理の領域とが、適切に連絡し、また適切に分離された提案となっているか。
⑦施設運営	⑦-1	施設の配置計画及び動線計画	搬入車両による渋滞発生を抑制し、利用者（ごみ・資源の搬入者、見学・来訪者）にとって安全でわかりやすい動線計画となっているか。また、場内の各種施設との連携が円滑であり、現施設解体後の将来計画への対応等長期にわたる施設運営の継続に対して合理的な提案となっているか。
	⑦-2	デジタル技術の活用	キャッシュレス社会に適合した計量システムにより、計量から料金徴収までの合理化・迅速化が図られた提案となっているか。また、デジタル技術の活用等により、ごみ搬入量及び処理量が統計化しやすい計量システムの提案となっているか。
	⑦-3	機器類及び消耗品の安定調達や薬品使用量の低減の工夫	調達が容易で価格や性能が安定している機器類及び消耗品を選定し、薬品使用量並びに焼却残渣量の低減が図られた提案となっているか。
	⑦-4	人員配置、体制	安全で安定した稼働を継続するための必要な人数の想定、効率的な人員配置が計画されているか。また、施設計画が人員配置と整合し、作業の効率性に配慮した提案となっているか。
⑧工事中の安全、品質の確保及び工期の厳守	⑧-1	工事工程計画	建設工事に係るリスクを想定し、具体的かつ実効性の高い工事工程計画により、安全率を持った工期内の完成が見込まれる提案となっているか。
	⑧-2	工事管理方法	工事管理（工程管理、材料管理、安全管理、品質管理）の方法について、工事の品質向上等に資する提案となっているか。
	⑧-3	工法・仮設計画	効率的な工法の採用や仮設計画等により、安全性が確保され、高い品質の工事が工期内に完成できる提案となっているか。
	⑧-4	既存焼却施設等との連携	工事中、施設内のごみ処理が安全に継続され、完成後、新施設に切り替わり、施設内のごみ処理が適正かつ安全に行われるような工事計画となっているか。
⑨その他	⑨-1	地元企業との連携・活用	地元企業との連携・活用（工事発注、用役・資材調達等の種類、金額）について、具体的かつ有効な提案となっているか。
	⑨-2	地域経済への貢献及び周辺地域への配慮	地域経済に貢献するよう、工事内外における地元企業への資材、人材、物品等の発注や工事期間中の周辺地域への配慮がなされた提案となっているか。

審査項目	審査内容		配点	グループ名		講評
				のりくらグループ	はくさんグループ	
①周辺環境への配慮	①-1	自主規制値を遵守するためのプラントシステムの構築	20点	14	18	・両グループとも、大気汚染に係る全国でもトップクラスの厳しい排出基準、その他の規制基準値を遵守しながら適正処理を行うためのプラントシステムについて、優れた提案がなされていた。 ・はくさんグループについては、代表企業の豊富な実績に基づく信頼性を高く評価した。
	①-2	自主規制値遵守のための管理値と監視システム	20点	13	15	・両グループとも、排ガスの自主規制値遵守のために適切な管理値を設定し、監視、運転管理等について、具体的な提案がなされていた。 ・はくさんグループについては、アラーム発生時の対応及び復旧の方法が時系列的に整理されている点を高く評価した。
	①-3	環境影響の低減	20点	13	12	・両グループとも、粉じん、振動、騒音、悪臭、害虫等のごみ処理に起因する環境への影響を低減する工夫について、実績のある具体的な提案がなされていた。 ・のりくらグループについては、悪臭防止、害虫発生抑制の提案を高く評価した。
	①-4	各種制御システムの配備や最適な機器類の選定配置	20点	13	15	・両グループとも、トラブルや事故を未然に防ぐための自動制御やフェールセーフ等の安全設計について具体的な提案がなされていた。また、余裕のある容量、能力、耐久性をもった機器を採用することにより、信頼性の高い提案となっていた。 ・はくさんグループについては、同種の施設における過去のトラブル対策を反映した安全設計である点を高く評価した。
	①-5	工事中の環境配慮	20点	17	17	・両グループとも、工事車両の通行や工事に伴う周辺環境への影響（工事車両排ガス、粉じん、騒音、振動、悪臭、排水等）を低減する方策について優れた提案がなされていた。
	小計		100点	70	77	
②エネルギー有効活用など脱炭素社会への配慮	②-1	エネルギー回収の工夫	20点	18	20	・両グループとも、エネルギー回収率について発注仕様書に求める要件を大きく上回る優れた提案がなされていた。また、ごみ質、ごみ量の変動に対して適切に蒸気供給、発電が可能な優れたシステムの提案がなされていた。 ・はくさんグループについては、2炉運転時の場合のエネルギー回収率を高く評価した。
	②-2	消費電力、買電量の低減	20点	12	15	・両グループとも、電力の系統連携ができない条件を踏まえて、発電量と場内消費量のバランスを検討し、消費電力、買電量を低減する具体的な提案がなされていた。 ・はくさんグループについては、発電量制御方法及び実績に基づく信頼性を高く評価した。
	②-3	熱、電気の安定供給	20点	15	16	・両グループとも、1炉運転の場合でも安定的に熱、電気の供給ができる優れた提案がなされていた。 ・はくさんグループについては、年間発電量、年間熱供給量の提案を高く評価した。
	②-4	エネルギー活用提案	20点	16	15	・両グループとも、将来の蓄電池の活用を視野に入れ、余剰熱量・電力も有効活用できる優れた提案がなされていた。 ・のりくらグループについては、実績に基づく電池交換ステーション及びEVごみ収集車の運用に関する具体的な提案を高く評価した。
	②-5	脱炭素の取り組み	20点	14	15	・両グループとも、施設全体で省エネルギーが図られており、脱炭素の取り組みについて優れた提案がなされていた。 ・はくさんグループについては、焼却施設のCO2削減量が明示されている点を高く評価した。
	小計		100点	75	81	
③安全、安心な施設	③-1	30年間の安定稼働	20点	14	13	・両グループとも、長寿命化設計によりライフサイクルコスト低減と安定稼働を両立する具体的な提案がなされていた。 ・のりくらグループについては、ボイラ内の清掃システム等に関する提案を高く評価した。
	③-2	適切な維持管理計画及び費用の低減の工夫	20点	12	13	・両グループとも、定期点検、検査、補修及び更新に係る維持管理計画について合理的な提案があり、費用低減について具体的な提案がなされていた。 ・はくさんグループについては、機器重要度評価に基づく保全計画及び検査方法を高く評価した。
	③-3	事故の防止、安全への配慮	20点	13	13	・両グループとも、ヒューマンエラーによる事故や災害の防止について、実績に基づいた有効な提案がなされていた。
	③-4	働く人の健康、働きやすさへの配慮	20点	14	14	・両グループとも、空調、換気、照度、作業用の空間の確保など、働く人の健康や快適性について優れた提案がなされていた。
	③-5	不測の事態への対応	20点	13	16	・両グループとも、トラブル発生時の迅速なサポート、プラント停止時の速やかな復旧について具体的な提案がなされていた。 ・はくさんグループについては、地元協力企業による緊急時サポート体制の提案及び代表企業本社からのサポートの工夫を高く評価した。
	小計		100点	66	69	
④環境学習機能	④-1	見学者対応機能	20点	18	17	・両グループとも、見学者動線、見学内容、見学窓の配置、見学者説明設備等について優れた提案がなされていた。 ・のりくらグループについては、学習対象の明確なゾーニングや回遊性を意識したフロア構成等の提案を高く評価した。
	④-2	環境学習へのアクセス性、快適性	20点	16	17	・両グループとも、来訪者が見学用施設に安全かつ容易にアクセスでき、様々な年代の見学者が滞在中に快適に過ごせる優れた提案がなされていた。 ・はくさんグループについては、国際観光都市である飛騨高山の特性を踏まえたユニバーサルデザインの提案を高く評価した。
	④-3	効果的な環境学習のための設備等の提案	20点	15	14	・両グループとも、様々な年代の人々が繰返し訪れることを想定し、デジタル技術を活用した優れた提案がなされていた。 ・のりくらグループについては、見学コンテンツの提案を高く評価した。
	小計		60点	49	48	

審査項目	審査内容		配点	グループ名		講評
				のりくらグループ	はくさんグループ	
⑤防災機能	⑤-1	避難所としての機能	20点	17	15	・両グループとも、災害発生時の避難場所としての機能性に配慮し、十分な備蓄品貯蔵スペースを備えた優れた提案がなされていた。 ・のりくらグループについては、余裕をもった避難者の想定人数、分かりやすい避難者エリアの提案を高く評価した。
	⑤-2	非常時の早期復旧	20点	15	17	・両グループとも、地震等の災害による全停電及びライフライン遮断時の早期復旧のための、自立運転への移行方法、通常時からの薬品等の備蓄等について優れた提案がなされていた。 ・はくさんグループについては、地震以外の停電時の運転継続の仕組み等の幅広い対応についての提案を高く評価した。
	⑤-3	災害廃棄物の処理機能	20点	13	15	・両グループとも、災害廃棄物発生時の通常ごみとの並行処理について具体的な提案がなされていた。 ・はくさんグループについては、災害発生時の支援体制の提案を高く評価した。
	小計		60点	45	47	
⑥建築計画	⑥-1	優れた建築設計	20点	10	15	・両グループとも、長期間安全に稼働することを前提とした建築物の構造、耐久性、維持管理性、積雪凍結対策、採光、換気、作業性等について具体的な提案がなされていた。 ・はくさんグループについては、積雪・凍結対策として高山市特有の気候を把握している地元協力企業のノウハウを活用する提案を高く評価した。
	⑥-2	外観、デザイン	20点	14	14	・両グループとも、形状、材質、仕上げ、色彩等の施設の外観が周辺環境と調和した優れた提案がなされていた。
	⑥-3	内部のデザイン	20点	14	15	・両グループとも、機能的なレイアウト、ユニバーサルデザイン、維持管理等に配慮した優れた提案がなされていた。 ・はくさんグループについては、維持管理に配慮された内装の提案を高く評価した。
	⑥-4	居室、通路等の適切な配置	20点	15	15	・両グループとも、使いやすい居室と通路の配置、見学者・事務系業務・運転管理業務の適切な連携と分離について優れた提案がなされていた。
	小計		80点	53	59	
⑦施設運営	⑦-1	施設の配置計画及び動線計画	20点	11	13	・両グループとも、搬入車両による渋滞発生を抑制し、利用者にとって安全でわかりやすい動線の具体的な提案がなされていた。 ・はくさんグループについては、シミュレーション結果に基づく渋滞を起こさない搬入車両動線計画の提案を高く評価した。
	⑦-2	デジタル技術の活用	20点	15	14	・両グループとも、デジタル技術の活用による計量業務の合理化・迅速化が図られ、ごみ搬入量・処理量の統計処理を容易にする優れた提案がなされていた。 ・のりくらグループについては、将来のリサイクル施設供用を視野に入れた、拡張性のある計量システムの提案を高く評価した。
	⑦-3	機器類及び消耗品の安定調達や薬品使用量の低減の工夫	20点	11	14	・両グループとも、調達が容易で価格や性能が安定している機器類・消耗品を選定し、薬品使用量・焼却残渣量の低減を図った具体的な提案がなされていた。 ・はくさんグループについては、最終処分場の延命化・安定化に寄与する排ガス処理剤の採用及び飛灰処理薬剤使用量低減の工夫の提案を高く評価した。
	⑦-4	人員配置、体制	20点	11	11	・両グループとも、安全で安定した稼働を継続するための必要人数の想定、効率的な人員配置について具体的な提案がなされていた。
	小計		80点	48	52	
⑧工事中の安全、品質の確保及び工期の厳守	⑧-1	工事工程計画	20点	14	16	・両グループとも、建設工事に係るリスクを想定した実効性の高い工事工程計画により、安全率をもって工期内の完成が見込める優れた提案がなされていた。 ・はくさんグループについては、現地の気象条件を熟知した地元協力企業の知見をもとにした冬期工事の対策に関する提案を高く評価した。
	⑧-2	工事管理方法	20点	16	13	・両グループとも、工事管理（工程管理、材料管理、安全管理、品質管理）の方法について、工事の品質向上等に資する具体的な提案がなされていた。 ・のりくらグループについては、デジタル技術を応用した材料管理の提案を高く評価した。
	⑧-3	工法・仮設計画	20点	15	13	・両グループとも、効率的な工法の採用や仮設計画等により、安全性が確保され、高い品質の工事が工期内に完成できる具体的な提案がなされていた。 ・のりくらグループについては、工期短縮や高品質な施工を実現する具体的な提案を高く評価した。
	⑧-4	既存焼却施設等との連携	20点	14	14	・両グループとも、工事中に現施設内のごみ処理が安全に継続でき、完成後は本施設へのごみ処理の移行が適正かつ安全に行える優れた提案がなされていた。
	小計		80点	59	56	
⑨その他	⑨-1	地元企業との連携・活用	20点	7	20	・両グループとも、地元企業との連携・活用（工事発注、用役・資材調達等の種類、金額）について具体的な提案がなされていた。 ・はくさんグループについては、地元企業への発注見込みに関する提案を高く評価した。
	⑨-2	地域経済への貢献及び周辺地域への配慮	20点	14	15	・両グループとも、地域経済に貢献する地元企業への資材、人材、物品等の発注や工事期間中の周辺地域への配慮について優れた提案がなされていた。 ・はくさんグループについては、域内経済循環を意識した取り組みや市民への工事の進捗情報等を随時発信できる仕組み等、周辺地域に配慮した提案を高く評価した。
	小計		40点	21	35	
合計		700点	486	524		